

第2回 白石市まち・ひと・しごと創生戦略会議

- 1 日 時 平成27年9月1日（火） 午後3時～午後5時05分
- 2 場 所 白石市役所4階 大会議室
- 3 内 容 1) 事務局より（仮称）白石市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンについて説明。
第1回会議で配布した資料の訂正について説明
第1回会議でご意見いただいた市内事業所数及び就業人口の推移、有効求人倍率等について、市の産業特性に関する資料に基づき、説明を行った。

○「人口ビジョン」及び「市の産業特性」に関する委員からのご意見
・平成24年の事業所統計の数字が白石市統計書と違うが確認してほしい。
- 2) 事務局より人口ビジョンの将来展望人口について説明。
○「将来展望人口」に関する委員からのご意見
・子育て支援等の具体的な政策どのようなものがあるか

→妊婦健診費用、誕生祝い金、すくすくベビー券、3人目からの保育園、幼稚園に係る費用の補助、中学3年生まで医療費無料などの施策を実施している。また、35人学級編成や学力テストの回数増加など学力向上に向けた取組も進めている。
- 3) 事務局より（仮称）白石市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について説明。
○「総合戦略（骨子案）」に関する委員からのご意見
・人口が減少したとしても市民が豊かな生活ができる市になってほしい。数値目標をみると、市民一人一人の豊かさを表す数値となっているのでしょうか。交流人口の増加とありますが、これによって市民が豊かになるのでしょうか。例えば、件数や従業員数といった「量」ではなく、サービス等従事者の平均所得の向上など「質」を目標にすべきではないのでしょうか。規模が縮小しても、生活の質が高いまちであればと思いま

す。

・第二小学校では全児童数 645 人の約半数となる 1～3 年生で、放課後児童クラブに約 150 人通っています。約 50%の児童が利用している中で、施設は手狭な状況です。現役の保護者の声にスピード感をもって応えなければならないのではないのでしょうか。現在、市で取り組んでいる 35 人学級や全アレルギー個別対応となった給食センターの運用がスタートしどのような効果がでているのか、学校や教育委員会でアピールする必要があるのではないかと思います。さらに、市全体の子どもの学力を上げていくことを考えなければなりません。ハードとソフトの各事業を連携していくことが必要と思います。

・人口を減らさないことばかりに注力するのでは良い社会にならないと感じています。観光については、観光客の減少の原因を究明しなければなりません、資料がありません。事業者の利益をあげるための施策となれば良いと思います。

・人口ビジョンについて楽観視されているように感じます。合計特殊出生率など、国が目指していることに市が倣う必要があるのでしょうか。人口ビジョンを達成するための施策が可能であるのか疑問である。

→国、県も目標を立てており、市としても非常に厳しい現状ではありますが、これからの検討や皆さまからの施策案などをいただきながら進めていきたいと思っています。

・それぞれの立場は違いますが、こういった場をもっと活性化させ、みなさんがそれぞれの立場でできることをひねりだしていくことを考えていければよいと思います。

・この施策を見ると、今やっている内容を踏襲しているだけのように思えます。これまでの課題の振り返りもせずに、拡充していくことはありえないと思います。これまで実施してきた各施策の課題抽出をどこかで検討する場を設けていかなければならないのではないのでしょうか。

・「出生率」というのは結果であり、出生率をあげましょうという目標はないと思います。1つのことを広めた結果、子どもが地元に戻り孫が

生まれるというように、一点突破、全面展開で考えていくことが大切ではないでしょうか。

ところで、白石市は何に注力するかという点がありません。観光については、白石城を貸し切りで使えるようにする、ALT の先生を招待し、SNS から海外に発信してもらい、流し温麺大会など、今あるものを使った事業を考える方が現実的だと思います。

役所だけではマンパワーが足りないです。手を貸す人たちが結集して、アイデアを出し合わなければいけないと思います。

・地域ブランドをつくる活動を行っていますが、外部からの需要をどう取り込むかは観光だけでないと思います。外部の需要を取り込んで、消費と雇用を生み出せば、市民一人あたりの所得は上がると思います。

・結婚がきっかけで東京から移住してきましたが、以前から地方で暮らすことに希望を持っていました。現在は地方創生ということで、交付金などがつく時だと思いますが、持続的なものではありません。今あるお金を使ってやるべきことは、人を育てることだと思います。施設や物ではなく、市を活気づけることができる人材をどれだけ残せるかが課題ではないでしょうか。

加えて、起業促進策も必要だと思います。大企業を誘致しても、その従業員は市に住みたくて来ているのではないので、企業が撤退すればいなくなってしまう。地方で働きたい若者が増えている中で、優秀な若い人たちが地域に入って活動すると事例もありますので、是非市にもそういった方を呼び込めたら良いのではないのでしょうか。

子育てについても、どの自治体も取り組んでいることですので、何か1点でも特徴的な独自の施策があると良いと思います。

・高校生は、基本的には住んでいる町が好きだと思います。大学に進学すれば必ず市から出て行ってしまいますが、どれだけ戻ってきてもらえるかだと思います。市にどういう仕事があるか、戻るための目玉が重要です。若者がまちづくり活動に参加すれば、若者たちのつながりを強くし、1度出て行っても戻ってくることに繋がると思います。

・白石市単独での取り組みは難しいのではないのでしょうか。医療が充実していないと安心して産み育てることはできません。市には病院が少ないという問題もあります。

観光についても、白石城や温泉だけでは1年中来てもらうのは厳しいです。来ていただくためには、蔵王やセヶ宿などとの連携が必要だと思います。

企業誘致では、従業員数の問題があると思います。賃金をあげて人を取り込むことになると、市内に今まであった会社の賃金も上げざる得ない状況になり、中小企業の支出が増えてしまいます。また、転勤者は子どもをしっかり育てたいという思いから、仙台等に住んでしまいます。教育についても、観光についても、幅広く他市町村とお互いに協力し合いながら取り組まなければいけないと思います。

・他市町村の骨子案に対して意見が多いのは、財政的に厳しい中で総花的ではなく何を重点的にやりたいのかを明確にして総合戦略を策定すべきということです。どのような特色が打ち出せるのか。企業誘致しても、住んでもらえないのは何故かという点に着目しなければならないと思います。

子育てについては各自治体で様々な取り組みがありますので、子育て世代の本当のニーズに着目した取り組みに絞るべきと思います。

・人口減少については従来からも言われており、各自治体の課題だと思います。人口ビジョンの内容と総合戦略の数値目標等の繋がりがわかりづらいように思いました。数値目標について時系列データがあればわかりやすいかと思います。また、業界別の役割や先生方の経験等もあるかと思えますので、今後間接的にできることを検討できればと思います。

・本日は様々なお意見、お考えをお聞かせいただけたと思います。次回も時間が限られておりますので、今回の内容を持ち帰って考えていただき、次回にご発言いただければと思います。

→次回は具体的な施策について、検討いただきたい旨伝えた。